

## 中流住宅の平面構成に関する研究

第 12 報 南入り系列平面事例による発展過程の実証的考察 —その 3 持家系・杵築市

○ 正会員 岡 俊江\*5 同 青木 正夫\*1 同 竹下 輝和\*2 同 磯貝 道義\*3  
 同 友清 貴和\*3 同 宮里 義文\*4 同 中園 真人\*6 同 宮崎 信行\*5  
 同 秋元 一秀\*5 同 川崎 光敏\*5 同 川島 浩孝\*5 同 長嶋 洋子\*5

はじめに

本報では、大分県杵築市における南入りタテ中廊下型平面の発展過程を、前年度の仮説に基づき考察する。

### ① 杵築市の概要

大分県杵築市は、別府市の北東、国東半島の南頸部に位置する。松平三万二千石の旧城下町である。市街地は近世初頭に、入坂川と高山川とはさまれて海につき出た城山台地に城が築かれ、南北の台地に中上級武家屋敷および北台の北西部古野に下級武家屋敷、そしてこの両台地の間の谷川沿いに町家が配され、その町並みを残したまま現在に至っている。(図-1)

### ② 現代住宅プランの特徴

図-2 および図-3 は、杵築市における現代住宅プランである。これらの住宅の基本的特徴は、

- (1) 玄関からタテ中廊下がとられ、これにより接客空間と家族生活空間の領域が大きく区分されている。
- (2) タテ中廊下のつきあたりに設備が集中する。
- (3) 接客空間領域は、南北続き間座敷である。

等があげられる。

なお、南北続き間座敷の構成は南に座敷が位置するものと、北に座敷が位置するものに大きく分けられるが、タテ中廊下型平面の完成に至るまでの発展過程においては、以下で考察されるようにきわめて類似している。

### ③ タテ中廊下型平面の発展過程

図-4 は、約 150 年前前に建設された南台にある中級武家住宅のプランである。ここでは格式を持った式台付次の間と、家族用の内玄関を持っている。次の間には、座敷の前室としての機能と、多人数接客時の座敷の続き間としての機能が併存している。また家族の便所動線は、まわり縁によって解決されているが、当初からのものであるかは不明である。

図-5 も同じく江戸末期の住宅のプランである。北入りではあるが、平面構成、便所動線の解決のされ方は図

図-1 杵築市旧学区分図\*

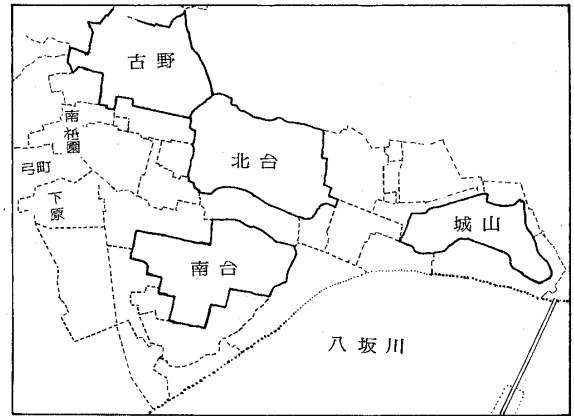


図-2 杵築市南台 (昭和 46 年)

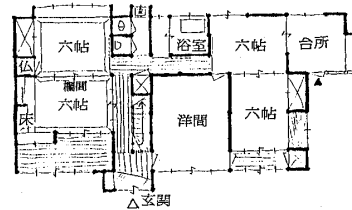


図-3 杵築市南祇園 (昭和 52 年)

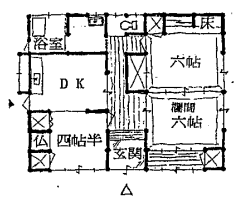


図-4 杵築市南台 (江戸後期)

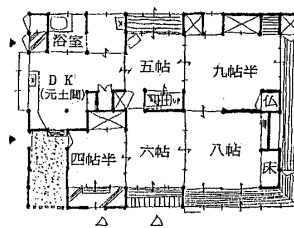
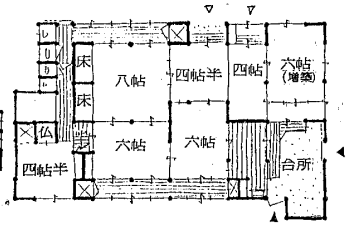


図-5 杵築市弓町 (江戸末期)



4 と同じである。

これ以降の平面型の発展を検討すると次の STEP に区分される。

#### STEP 1. 座敷直入り型

江戸時代の武家住宅においては、2つの玄関を持っていたが、明治期になると図-6 のように、玄関は1つになっている。また南北続き間座敷の北側の室に長押がつけられ2室の間には欄間が設けられている。こ

の北側の室が多人数接客時の座敷の続き間としての機能を持つようになり、従来の次の間の位置の空間は玄関の間として縮小する。この玄関の間には座敷の前室および日常応対の間としての機能のみが残ることになる。一方以前の内玄関の位置の空間は家族の居室となり、それまで北側にしかなかった家族生活空間の南面化がおこっている。

### STEP 2 便所の移動

図-7では、それまで座敷の床の間の裏にとられていた便所がナンド裏にとられている。座敷の客の使用を重視した位置から、より家族の使用を重視した位置に移ったといえよう。また浴室は、このプランのように便所側に設置される場合と台所側に設置される場合がある。後者の例が多く見られるがこれは水くみ・炊きつけ等が主婦あるいは女中の仕事であるためと思われる。

### STEP 3 中廊下の発生

図-8では、玄関の間の奥の空間が以前より縮小して3帖の間となっている。もともと玄関の間と同じく家族の通り抜けが頻繁であり、室として不安定であったため縮小してタタミ廊下になったものと思われる。これによりナンド、茶の間、浴室への動線は確保された。しかし依然便所はナンドの裏にあり、座敷前の縁からまわり縁による解決がなされているが日常的にはナンドの通り抜けが起っていたものと思われる。

### STEP 4 タテ中廊下型平面の完成

タタミ廊下が板張化し、設備が集中してタテ中廊下型平面が完成する。(図-9) 戦前には玄関の間は残っており、それが板張化するの戦後である。

なお、現代において家族生活空間が大きくなる場合には、各室への動線を確保するために、中廊下が延長されている。(図-2)

\* 参考文献 「杵築市—伝統的建造物群保存対策調査報告書—」  
杵築市教育委員会 昭和56年

写真-1 現代住宅外観



図-6 杵築市北台 (明治35年ごろ)

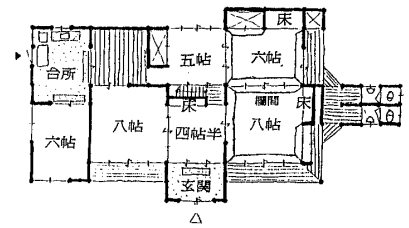


図-7 杵築市下原 (昭和7年)

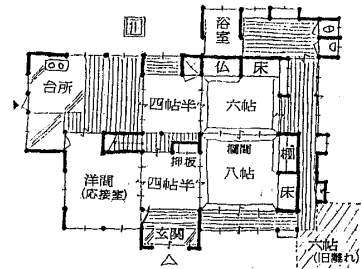


図-8 杵築市南台 (昭和6年)

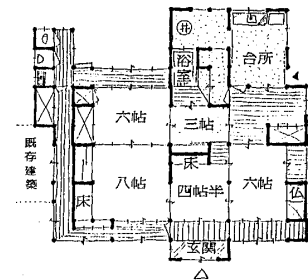


図-9 杵築市南台 (昭和10年)

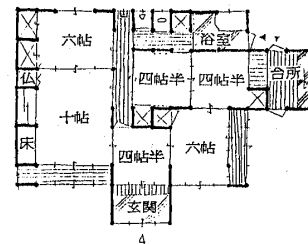


写真-2 住宅外観 (図-9)



\*1九大教授・工博 \*2同講師 \*3同助手 \*4同技官 \*5同大学院生 \*6大分大助手